



SHUNKEN 2007-04 35-01



プロフェッショナルを目指して

—その2：より高度な学習の薦め—

白井伸明

平成18年4月号（前号と呼ぶ）において表題に関するメッセージを小文として紹介した。本号では、前号を一部引用しつつ、本号の副題に焦点を当てつつ私見を述べてみる。

日本の大学における建築教育は、一部の例外を除き、工学部あるいは理工学部で行われており、そのプログラムは世界の中でも特異である。欧米の大学における建築学は「デザイン教育 (Design Education)」を核とした体系であり、建築学科は芸術系の学部へ属するか、あるいは独立した学部として組織されているようである。一方、日本の大学における建築学は「デザイン教育」と「工学教育 (Engineering Education)」が混在した体系となっている。本学のカリキュラムに当てはめると、「デザイン教育」は都市計画や建築史を含む「設計・計画コース」の学科目と建物資産の維持・管理を含む「企画経営コース」の学科目の一部により構成されるカリキュラムに該当し、一方「工学教育」は温熱環境や設備設計を含む「環境・構造コース」の学科目により構成されるカリキュラムに該当することになる。なお、音や光の設計・制御を含む分野は「工学教育」だけでなく「デザイン教育」とも密接に関連するようである。また、欧米における構造・材料・施工分野の工学教育は、「土木工学 (Civil Engineering)」で行われており、建築構造物だけでなく、道路・橋梁・ダム・鉄道・河川・港湾など広範囲の施設や構造物も扱われている。したがって、構造工学分野の学習・研究を目的として欧米等の大学に留学を希望する学生の受入学科は土木工学となる。

さて、教育に関する国際的な同等性を確保することを目的とした我国の動向として、前号で述べたように、日本技術者教育認定機構 (JABEE) による大学教育プログラムの認定制度がある。JABEEは工学教育に関する認定制度であり、土木、機械、電気などの工学分野ではほとんど問題は無いが、特異な日本の建築学教育はデザイン教育か工学教育かの如何に関わらず、アジア・欧米を含む諸外国の教育プログラムとの同等性を測るのは難しい。つまり、デザイン・工学のいずれの分野とも要求される学習学科目数および学習時間は欧米と比べると不

足していると言える。例えば、2002年 UNESCO/UIA (国際建築家連合) で採択した建築設計資格者を国際的に相互認証する教育基準では、少なくとも5年の教育修業年限を求めている。なお、UIAは2002年7月から教育認定を開始している。また、ACE (欧州建築家評議会)、AIA (米国建築家協会) および NCARB (米国建築家登録評議会) は資格の相互認証に関する協定を結び、さらにこれを世界各国の国際協定へと発展させる見込みである。一方、「APEC Architect」の動向として、アジアの国々も欧米と同様の方向に向けて進んでいるようである。日本建築学会では、国際化に対応して2003年3月特別委員会答申「設計教育の在り方についての提言」の中で、「学部(4年)+大学院(2年)を一体化した6年間教育の設定」を推奨している。以上を要約すると、「デザイン教育」、「工学教育」いずれも国際的に同等な広範かつ高度な教育プログラムを達成するためには、大学院まで含む教育・研究を視野に入れたプログラムの開発・促進が推奨されているということである。

本学大学院理工学研究科にとっての最近の朗報としては、姉妹校として学術交流の深いドイツのダルムシュタット工科大学 (TUD: Technical University of Darmstadt) との間でデュアルディグリープログラム (Dual Degree Program) が平成19年度よりスタートすることである。このプログラムは3年間の学習・研究により日本大学とTUDの2大学より学位を授与されるというものである。例えば、本学の院生の場合、入学後の6ヵ月と2.5年後の6ヵ月を日本大学で、中間の2ヵ年間をTUDで学習・研究を行うことになる。海外の大学院での2ヵ年間の経験は勉強面だけでなく、人的および文化的な国際交流という意味でも極めて価値があると考えられる。将来、建築学科よりこのプログラムを利用する学生が現れることが期待される。

筆者は、本小文において、日本と欧米等の建築教育体系の違い、教育プログラムの認定制度、大学院教育と国際交流などについて考えてきた。私たちファカルティは自己点検や授業評価などを通じて様々な改革に取り組み、より良い制度と優れた教育プログラムの確立を目指している。しかし、これらの制度やプログラムが有効に機能するかどうかは、ひとえに学生個々の意思・努力・ポテンシャルに依存すると考えている。建築学の中で自分のポテンシャルを活かせる分野を見出し、無駄や努力を惜しまず、本物のプロフェッショナルを目指して成長されることを期待している。最後に、UNESCO/UIA などに関する情報は本杉省三教授の資料を参照させていただいた。ここに、謝意を表します。

(しらいのぶあき・建築教室主任、教授)

平成19年度 履修要項

建築学科

平成19年4月

■ 履修に関する一般事項

◆履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには

平成19年度クラス担任 学部

学年	クラス担任	研究室No.
1年	専門 川島 和彦 田嶋 和樹	御茶ノ水セントラルビル・402室 駿・3号館331室
2年	1組 ◇ 2組 ◇ 中田 善久 八藤後 猛 根上 彰生 山中新太郎	駿・4号館439A室 駿・9号館965B室 御茶ノ水セントラルビル・403室 御茶ノ水セントラルビル・315室
3年	環境・構造コース ◇ 設計・計画コース ◇ 企画経営コース 山田 雅一 富田 隆太 佐藤 光彦 渡辺 富雄 三橋 博巳	駿・4号館433A室 御茶ノ水セントラルビル・324室 駿・9号館966B室 駿・9号館966A室 駿・3号館332室
4年	環境・構造コース ◇ 設計・計画コース ◇ 企画経営コース ◇ 過年度生 岡田 章修 橋本 浩生 蜂巣 今村 今村 雅樹 三橋 博巳 佐藤 慎也	駿・4号館439B室 御茶ノ水セントラルビル・324室 駿・4号館453室 御茶ノ水セントラルビル・314室 駿・3号館332室 御茶ノ水セントラルビル・316室
委員会	就職指導 公務員試験対策 学芸員 早川 眞 宇於崎勝也 重枝 豊	駿・4号館453室 御茶ノ水セントラルビル・404室 御茶ノ水セントラルビル・320室
学生相談室相談員	三橋 博巳 古橋 剛 山崎 誠子	駿・3号館332室 駿・4号館454室 御茶ノ水セントラルビル・325室
NU建築フォーラム	渡辺 富雄 (幹事)	駿・9号館966A室
建築教室事務室 (就職事務)	栗原のり子 矢萩有美子	駿・4号館447室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	安達 俊夫	駿・4号館433A室
2年	本杉 省三	御茶ノ水セントラルビル・317室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年	宇於崎勝也	御茶ノ水セントラルビル・404室
2年	横内 憲久	駿・9号館9121室

必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。

なお、本年度の2年次編入生には平成18年度の、また3年次編入生には平成17年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもとまって改訂されることがある。平成15年度の改正によって、1～5年次生、6～8年次生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。平成15年度から適用されている新しいカリキュラム（通称「新・新カリキュラム」）では大幅な改訂が行われている。6年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表（時間割の裏面参照）によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

◆相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能学科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短期大学部にまで拡張したものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

◆他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があつて、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

◆受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて

合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

◆**教職課程・学芸員課程の受講** 中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項（教職課程・学芸員課程）を参照されたい。

◆**GPA制度（Grade Point Average）** 平成17年度入学生より日本大学として統一した成績評価システム（GPA制度）が導入された。これは授業内容の向上や成績評価の統一化、などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1年次生のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

■ 1年次生

○履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成19年度（2007）学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほか、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース）の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

○新・新カリキュラムについて

平成15年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格（JABEE、UNESCO-UIA）にも対応した科目構成となっている。学部要覧の授業科目配置表を見るとわかるように、初年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できること、が本カリキュラムの特徴である。なおいずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了

時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築教室がコースを決定する。

○総合教育・外国語の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

○基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「（選択）共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「（必修／選択）専門基礎教育科目」が、設置されている。前者の共通科目の微分積分学、基礎物理学Ⅰおよび工業数学は、基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得するようにしたい。また後者の専門基礎教育科目には、建築基礎実験とデザイン基礎の必修2科目およびコンピュータリテラシ、情報処理の選択2科目が設置されている。これらは全て建築学の基礎であるから、1年次で全て受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、デザイン基礎の単位を修得しないと後期の「建築設計Ⅰ」を受講できないことに留意すべきである。

○専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修3科目と選択4科目の計7科目が設置されている。この内、環境の計画と技術（必修）、建築デザインと歴史、構造の計画と技術、社会と建築・都市の4科目は、建築全般を概観する教科である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を習得するものであり、全ての受講をすすめる。なお初年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計Ⅰ」の単位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

1年次では最大46単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日5時限まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

■ 2年次生

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成18年度（2006）学部要覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を

受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラス的时间割に従って、受講計画を立ててもらいたい(クラスを変更した受講はできない)。なお1年次設置の専門科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置科目の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目(11科目)はもちろんのこと、共通に位置づけられている8科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目の「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う科目「設計演習Ⅰ」、「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目(卒業のためには※印6科目中5科目以上を取得する必要がある)であり、本コースを目指す場合には、必ず受講することをすすめる。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引き」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学」、また専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」と「建築情報処理Ⅰ」の3科目が設置されている。受講計画は、構造、環境工学、都市計画の基礎として「線形代数学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

○環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また3年次には、例えば設計・計画コースの「建築設計Ⅴ(設計・計画系群科目)」のように、コース毎に独自の科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コース

の独自科目の受講は他学科受講扱いになること、にも注意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間で卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築教室は「2年終了時の取得総単位数が42単位」という条件を設定している。これは卒業研究への着手条件(3年終了時に102単位)から、1年間で取得できる単位数の上限(60単位)を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく取得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心にして建築教室が実施するが、学生個々の取得科目の成績(総得点、平均点)や種類などに基づき適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程はクラス担任から掲示や建築学科のホームページを通じて伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

○建築設計Ⅱ、Ⅲおよび建築生産実験の受講について

建築設計も実験も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は7号館の3、4階に掲示されるので、確認するように心がけてほしい。

■ 3年次生

○各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかのコー

スのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「学部要覧」あるいは「建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

3年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。受講計画の際にはこの点について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

○基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」、「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」、「芸術史」が設置されている。受講計画には、構造・環境・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」と「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

○専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コー

スの独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容（シラバス）で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また表1の※印のついた科目は、一級建築士の受験時に極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

○専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも、将来のスペシャリ

表1 共通科目の構成（3年次）

科目	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	○	○	△
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○	○	○
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可
※ 一級建築士受験のために重要

表2 各コースの独自科目一覧（3年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース			
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2	×建築設計Ⅳ	2	都市デザイン*2	2
	環境工学Ⅲ	2	×設計演習Ⅱ	2	経済学特論Ⅰ	2
	構造力学Ⅳ	2	×設計演習Ⅲ	2	経済学特論Ⅱ	2
	構造力学演習Ⅳ	1	設計計画Ⅰ	2	会計学	2
	地盤基礎工学Ⅱ	2	設計計画Ⅱ	2	民法Ⅰ	2
	対地震構造	2	ランドスケープデザイン	2	民法Ⅱ	2
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2	インテリアデザイン	2	行政法規	2
	構造設計Ⅰ及び演習	3	建築史Ⅲ	2	不動産経営	2
			建築史Ⅳ	2	不動産維持管理	2
			都市デザイン*2	2	鑑定評価理論	2
			×都市調査及び演習	2	環境システム解析	2
			×デザインワークショップⅠ*1	1	地域開発計画Ⅰ	2
			デザインワークショップⅡ*1	1	地域開発計画Ⅱ	2
					×建築企画設計	2
					×不動産企画及び演習Ⅰ	1

× 他コースは受講不可能

*1 夏季集中講義として、デザインワークショップⅠ、Ⅱと交互に隔年で開講される。2007年度は同Ⅱが開かれる

*2 設計・企画コースと企画経営コースの共通科目

ストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、また卒業条件には10単位まで算入可能であるが、卒業研究着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された各コースの独自科目の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

○他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち共通科目のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、各コースの独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件を全て満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）
- ・3年次終了時に卒業研究着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち他コースの独自科目の受講は他学科の科目受講の扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、10単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究着手条件には算入できないことに留意すべきである。

○卒業研究着手条件について

4年次に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%に当たる102単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるため、十分に注意してほしい。この卒業研究の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・総合教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、14単位、2単位、16単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて取得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、英語6単位まで、その他の外国語4単

位まで算入する。

- ・他学科の設置科目（他のコースの独自科目も含む）は、算入しない。
- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：17科目31単位、設計・計画コース：16科目31単位、企画経営コース：17科目32単位）から24単位以上修得していなければならない。

これらの条件の内、先の3条件を考慮すると、専門教育科目の修得単位数は、必修科目を含めて60単位以上修得する必要があることになる。

また、次年度の卒業研究・設計に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

○3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1、2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コースの設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

■4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

○卒業研究の着手について

建築学科における卒業研究着手条件は、上述の「3年次生」の項目に記述している「卒業研究着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成19年1月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や4月初めの卒研ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

○卒業研究・設計とは

大学生活の締めくくりは、4年生の卒業研究・設計で

表3 共通科目の構成（4年次）

科目	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	10	●	●	●
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表4 各コースの独自科目一覧（4年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅠ*2 1	×不動産企画及び演習Ⅱ 2
	構造設計Ⅱ 2	デザインワーク ショップⅡ*2 1	建築マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 2007年度はデザイン・ワークショップⅡを夏季集中講義で開講する(表2*1参照)。

ある。各研究室が自由に、国際的に通じるような研究を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち修士論文と卒業研究の指導が、先生個人にも大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあい、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。

1年間、研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めることにある。

研究・設計には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつけながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究・設計である。

○ 専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの4年次に設置されている専門教育科目を表3と4に示す。2, 3年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースで設置科目の中から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件を全て満足する必要がある。

- ・ 3年次終了までの修得単位数が125単位以上の場合
 - ・ 4年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合
 - ・ クラス担任と科目担当教員が許可した場合(許可印受)
 - ・ 表4中の×印の付いていない科目の場合
- なお、他コース設置科目を修得した場合、10単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。

○ 専門教育科目に関する卒業条件

ここでは平成15年度からのカリキュラムを対象として説明する。平成14年度以前の入学者については、入学時に渡された「学部要覧」, 「建築学科履修の手引き」, あるいは「駿建」(2005. 4月号)を参照してほしい。建築学科の卒業に必要な単位は130単位以上と設定されているが、この内、総合教育科目が14単位、外国語科目が10単位、保健体育科目が2単位、基礎教育科目が16単位、その他いずれの科目区分にもよらない科目(他学科・他コース受講科目も含む)が10単位、それぞれ上限値として算入されるため、専門教育科目としては78単位以上取得する必要がある。この専門教育科目に関わる卒業条件は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。例えば環境・構造コースは共通科目の取得を重視しているのに対して、設計・計画コース、企画経営コースは3年次以上のコース独自科目の取得が必要とされている。

【環境・構造コース】

- ①必修科目17科目41単位
- ②選択共通科目(26科目50単位)から、1・2年次の科目9科目以上を含めて29単位
- ③環境・設備系群科目(6科目10単位)から8単位、または構造・生産系群科目(15科目27単位)から8単位の3条件を全て満足して、78単位以上修得することが条件となっている。卒業研究に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

【設計・計画コース】

- ①必修科目17科目41単位
- ②選択共通科目(27科目50単位)から1・2年次の科目7科目以上を含めて17単位
- ③設計・計画系群科目(18科目34単位)から20単位の3条件が設定されている。この内、③は2年次の科目の設計演習Ⅰ以外は全て3年次以上のコース独自科目である(表2, 4を参照)。この中には建築設計, 設計演習, デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

【企画経営コース】

①必修科目18科目42単位

②選択共通科目（22科目41単位）から12単位

③企画経営系群科目（21科目41単位）から※印の科目（「建築企画経営」、「経済学特論Ⅰ」、「民法Ⅰ」、「建築企画設計」、「不動産企画及び演習Ⅰ」、「不動産企画及び演習Ⅱ」の6科目）を5科目以上含めて24単位

の3条件が設定されている。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。各自の卒業研究・設計テーマとも関連づけて、クラス担任と相談の上、選択するのがよい。

○就職について

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実はどうもうまくゆかなくて、就職活動は1月、3年次の期末試験前後から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D. M. を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

○大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、（室内）環境設計者、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期（修士）課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が断然有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期（修士）課程と博士後期（博士）課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成20年度入学試験の募集定員はそれぞれ50、10名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生（社会人は除く）が受験できる入学試験は、7月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第Ⅰ期入学試験」、9月に実施される「一般第Ⅱ期入学試験」および3月実施の「一般第Ⅲ期入学試験」の4種類である。

現状では、大学院進学者は学部4年次卒業研究の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉学・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員（現状18名）を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

- 設計・計画系（建築史特別研究、建築計画特別研究、都市計画特別研究）：7名
片桐正夫（歴史）、本杉省三（計画）、横河 健（計画）、今村雅樹（計画）、佐藤光彦（計画）、小嶋勝衛（都市計画）、根上彰生（都市計画）
- 環境・設備系（環境工学特別研究）：3名
井上勝夫、関口克明、早川 眞
- 材料・構造・防災系（建築材料学特別研究、建築構造学特別研究、防災工学特別研究）：8名
安達俊夫（構造）、斎藤公男（構造）、白井伸明（構造）、半貫敏夫（構造）、秋山 宏（構造）、三橋博巳（構造）、岡田 章（構造）、石丸辰治（防災）
建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

1. 大学院教員1人あたりの受入大学院生数は概ね6名までとする。
2. 学内推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績（卒業研究着手時）が概ね上位25～30%に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大4名までとする。
3. 大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、3年次に実施される自己実力診断模擬試験および国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。
4. 短大教員を含む専任講師または助教以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名までとし、協同指導の大学院教員の6名枠に含めるものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよいだろう。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、三橋博巳教授に相談すること。

■ 建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に

示す。

■ 建築設計について

1～5年次生は新・新カリキュラム，6年次生以上は従来のカリキュラムでの履修になるので留意すること。

○ 1～5年次生（平成15年度以降入学者）

選択するコースによって，建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

建築設計はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で，2年次後期の設計演習Ⅰは選択科目である。3年次前期の建築設計Ⅳは，設計・計画，企画経営コースでは必修科目，環境・構造コースでは選択科目であり，課題内容も異なる。

建築設計Ⅴ，Ⅵ，設計演習Ⅱ，Ⅲ，デザインワークショップⅠ，Ⅱは，設計・計画コースのみの設置科目であり，選択科目である。将来，主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

デザインワークショップⅠとⅡは，3，4年次生を対象として，夏期集中授業として交互に隔年で開講される。

- ・必修科目であるデザイン基礎，建築設計Ⅰ～Ⅲは，設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・選択科目である建築設計Ⅳ～Ⅵ，設計演習Ⅰ～Ⅲは，設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

○ 6年次生以上（平成14年度以前入学者）

（旧）建築設計はⅠ～Ⅲまでが必修科目で，3年次後期の（旧）設計演習Ⅰと4年次前期の（旧）設計演習Ⅱは選択科目である。（旧）設計演習Ⅰ，Ⅱは，将来，主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には，自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

- ・建築設計の科目は，必修，選択ともに同時受講はできない。（旧）デザイン基礎Ⅰ，Ⅱを修得しないで（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを，（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを修得しないで（旧）建築設計Ⅲと（旧）設計演習Ⅰを，（旧）建築設計Ⅲと（旧）設計演習Ⅰを修得しないで（旧）設計演習Ⅱを受講することはできない。すなわち，建築設計科目は，設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・その他，建築設計の受講に関する手続きの詳細は，学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2007年度建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者，事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は，御茶ノ水セントラルビル3階，船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。
- ・6年次以上で，（旧）デザイン基礎Ⅰ，Ⅱ，（旧）建築設計Ⅰ，Ⅱを修得していない者は，平成15年度から新・新カリキュラムがスタートしているため，表6に示すように科目名称が変更となっているので留意すること。事務担当に確認の上，再受講手続きを行うこと。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧（平成15年度以降入学者）

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 岡村	化学実験（一般・化学） 物理実験（一般・物理） 専門科目 振動実験（石丸，古橋（剛）） 構造部材（岡村） 構造強度（斎藤（公），岡田） 風洞実験（三橋，下村，広部） 測定法（中山）
建築生産実験（必修・1単位） 三橋	木材・コンクリート実験 （中田，中山，飛坂） 鋼材実験（半貫，三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修，他コース：選択；1単位）井上，橋本	騒音実験（井上，橋本，吉村，雷田） 設備実験（蜂巢） 光実験（関口，羽入）
建築構造実験（環境・構造コース：必修，設計・計画コース：選択；1単位）岡田	構造安定実験（斎藤（公），岡田，宮里） 構造部材実験（白井，田嶋，清水（泰）） 土質実験（安達，山田）

（注）実験項目については，担当者の研究室へ，可否その他総合的な質疑は，担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目対照表

学年	前・後期	従来のカリキュラム	新・新カリキュラム
		6年次生以上	1～5年次生
1年	前期	（旧）デザイン基礎Ⅰ	デザイン基礎
	後期	（旧）デザイン基礎Ⅱ	建築設計Ⅰ
2年	前期	（旧）建築設計Ⅰ	建築設計Ⅱ
	後期	（旧）建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ
3年	前期	（旧）建築設計Ⅲ	建築設計Ⅳ*1
		——	設計演習Ⅱ
	後期	（旧）設計演習Ⅰ	建築設計Ⅴ
		——	設計演習Ⅲ
夏期集中	——	デザインワークショップⅠ，Ⅱ	
4年	前期	（旧）設計演習Ⅱ	建築設計Ⅵ
	夏期集中	——	デザインワークショップⅠ，Ⅱ
	前・後期	（旧）卒業制作	卒業研究・設計*2

■ 全コース必修

*1 設計・計画，企画経営コースの学生は必修

*2 時間割では，5年次以上の登録のために「卒業制作」を設けてある

■ はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか(=履修計画)は個人に自由が与えられるとともに責任が生じる。各自が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据え履修計画をすることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画をすること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生(表1)に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位(総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位(必修:26単位、選択:10単位)以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上)を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が一方に偏らず建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい制度(成績評価、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定)について概説し、さらに、建築設計と建築実験の受講に際する注意を述べる。

■ 成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N(S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定)と表記される(表3参照)。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA(次節参照)が記載さ

れる。なお、成績証明書にはD(59点以下)は表記されず、GPAは累積GPAのみの記載となる。

■ GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各修得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える(表3参照)。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてそ

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	吉野 泰子	船橋校舎 5号館 545・A	047-469-(5479)
	黒木二三夫	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5444)
2年	下村 幸男	船橋校舎 9号館 926・C	047-469-(5445)
	田所辰之助	船橋校舎 5号館 545・A	047-469-(5566)

表2 卒業に必要な単位

科目区分		卒業要件単位数
総合教育科目		12
基礎教育科目		7
専門教育科目	必修科目(15科目)	26
	選択科目	10
科目区分によらない任意の単位		7
総計		62

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント(平成17年度入学生に適用)

成績表上の表記	グレード・ポイント	
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

これらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA(グレード・ポイント・アベレージ)とする(表4・(1)式参照)。表4の例では、GPAは $19/9=2.11$ となる。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した全ての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数62単位に含まれない単位(部外単位)
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

■ 履修科目の登録単位数の上限

前学期および後学期の1年間に履修登録する単位数は50単位以下でなければならない。また、前学期または後学期に履修登録できる単位数は30単位以下でなくてはならない。ただし、該当年次の前学期に取得した単位数が21単位以上であり、かつGPA(グレード・ポイント・アベレージ)が2.5以上である場合には、年間55単位まで登録することが可能となる。4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限(50単位)を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように、年間を通じた計画をすることが望ましい。

なお、登録単位数としてカウントしない科目は以下の通りである。

- 1) 卒業要件単位数に算入することのできない科目
- 2) サマーセッション・スプリングセッションにおける再履修用開設授業科目

■ 単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。

なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

■ 科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなくてはならない。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

■ 学芸員課程

学芸員とは博物館法第4条第4項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成17年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

■ 履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコースの選定は2年次初めに自由に選択することができる。1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どちらのコースで主に学んでいきたいのか、どちらのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される(表5)。なお、所属コースによらず建築学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

■ 必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. デザイン基礎, 建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかななければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、課題・中間提出日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、全ての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築設計Ⅰを受講するためにはデザイン基礎の単位を、建築設計Ⅱを受講するためにはデザイン基礎、建築設計Ⅰの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。全ての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位×グレード・ポイント
国語表現法	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
物理学Ⅰ	2	B	2	4
微分法	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	コンピュータ 支援構造解析	1	左記科目より 8単位以上を 修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造設計法	2	
	構造力学演習Ⅲ	1	鋼構造	2	
	建築施工法	2	振動工学	2	
	環境工学Ⅰ	2			
	環境工学Ⅱ	2			
	鉄筋 コンクリート構造	2			
	土質及び基礎構造	2			
デザイン	建築法規	2	都市計画概論	2	左記科目より 8単位以上を 修得する
	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	
	美術・様式史	2	インテリア計画	2	
	空間デザイン	2	卒業制作	2	
	デザイン・ 生産実習*	2	建築メディア デザイン演習Ⅱ	1	
	建築メディア デザイン演習Ⅰ	1			

*サマーセッション

□ 研究室所在一覧

駿河台校舎

3号館

3 F 白井研究室 (白井・田嶋 331室)
三橋研究室 (三橋 332室)

4号館

3 F 半貫研究室 (半貫 432A室)
安達研究室 (安達・山田 433A・B室)
中田研究室 (中田 439A室)
空間構造デザイン研究室
(高藤・岡田 439B・C室)
4 F 建築教室事務室 (栗原・矢萩 447室)
5 F 環境・設備研究室 (早川・蜂巣 453室)
対震構造研究室 (石丸・古橋 454室)

9号館

5 F 岡村研究室 (岡村 952B室)
6 F 八藤後研究室 (八藤後 965B室)
渡辺研究室 (渡辺 966A室)

佐藤(光)研究室 (佐藤(光) 966B室)

環境・情報研究室 (関口 967B室)

御茶ノ水セントラルビル (5号館改修工事中的のみ)

3 F 横河研究室 (横河 S313室)

今村研究室 (今村 S314室)

山中研究室 (山中 S315室)

佐藤(慎)研究室 (佐藤(慎) S316室)

本杉研究室 (本杉 S317室)

宇杉研究室 (宇杉 S318室)

柳田研究室 (柳田 S319室)

建築史・建築論研究室 (片桐 S321室・大

川 S322室・重枝 S320室)

山崎研究室 (山崎 S325室)

建築音響研究室 (井上 S323室・橋本

S324室・富田 S324室)

設計講師室 (末岡・長谷川 S311室)

4 F 都市計画研究室 (小嶋 S401室・根上

S403室・宇於崎 S404室・川島 S402室)

船橋校舎

5号館

4 F 吉野研究室 (吉野 545A室)
矢代研究室 (矢代 545A室)
田所研究室 (田所 545B室)
黒木研究室 (黒木 546A室)
小石川研究室 (小石川 546B室)

6号館

2 F 環境情報研究室 (羽入 622A室)

9号館

1 F (短) 建設事務室 (酒匂 915室)
2 F 森田研究室 (森田 921B室)
岡田研究室 (岡田 926A室)
内藤研究室 (内藤 926B室)
下村研究室 (下村 926C室)

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法—作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
構造の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築基礎実験・建築実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	中田研究室 (439A)
	はじめてまなぶ ちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
応用力学Ⅰ,Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	安達研究室 (433A)
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	書店
構造力学Ⅰ,Ⅱ	建築構造力学 (上巻) 建築の構造とデザイン	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
		齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
構造力学Ⅲ,Ⅳ	建築構造力学 (下巻) 建築の構造とデザイン 鋼構造塑性設計指針	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
		齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
		日本建築学会	日本建築学会	3,360	日本建築学会, 書店
構造力学演習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ	建築構造力学演習(上,下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
鉄筋コンクリート構造Ⅰ,Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計—学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説1999—許容応力度設計法— 建築学構造シリーズ 建築空間構造 構造設計論 鋼構造設計規準	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
		皆川洋一 編著	オーム社	3,990	斎藤研究室 (439C)
		佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
構造とデザイン	空間 構造 物語 建築の絵本 建築構造のしくみ 建築の構造とデザイン 柱のない空間—スポーツ・イベント・展示ホール—	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
		川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
		齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
		日本建築学会	彰国社	1,937	斎藤研究室 (439C)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
構造解析	建築技術者のための有限要素法入門	佐藤稔夫 編著	理工図書	2,940	書店
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料用教材	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	中田研究室 (439A)
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	半貫研究室 (432A)
一般構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する) 構造用教材	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
			日本建築学会	1,937	書店
一般構法Ⅱ	建築構法 構造用教材 図解テキスト 基本建築学	内田祥哉 日本建築学会 上杉 啓, 真鍋恒博 他	市ヶ谷出版	2,940	書店
			日本建築学会	1,937	
			彰国社	4,410	
地盤基礎工学Ⅰ, Ⅱ	基礎構造の設計 —学びやすい構造設計— 建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会関東支部 日本建築学会	日本建築学会 関東支部	3,600	安達研究室 (433A)
			日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
デザイン基礎	建築図学概論 建築デザインの製図法から簡単な設計まで	若色峰郎, 柳田 武 他 武者英二, 永瀬克己	彰国社	3,150	書店 書店
			彰国社	2,415	
建築設計Ⅰ	建築設計教室 新訂 建築製図	勝又, 宮下, 本杉 日本建築学会	彰国社 彰国社	3,150 1,680	書店 書店
建築計画Ⅰ・Ⅱ	建築計画を学ぶ 第3版コンパクト建築設計資料集成	建築計画教材研究会 編 日本建築学会編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内 ガイダンス時に案内
			丸善	5,040	
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ 設計方法Ⅴ —設計方法と設計主体 デザインの鍵 建築デザインと環境計画	建築計画教材研究会 日本建築学会, 建築計画委員会, 設計方法小委員会 池辺 陽 柏原士郎 編著	理工図書	3,675	書店
			彰国社	2,447	書店
			丸善	3,675	書店
			朝倉書店	5,040	書店
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間 建築人間工学事典 人間工学の百科事典	日本建築学会 日本建築学会	丸善	9,870	書店
			彰国社	3,780	書店
			丸善		書店
都市計画Ⅰ, Ⅱ	都市の計画と設計 都市計画 第3版 日本近代都市計画の百年 「都市計画」の誕生	小嶋勝衛 監修 日笠 端, 日端康雄 石田頼房 渡辺俊一	共立出版	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています)
			共立出版	3,990	書店
			自治体研究社	2,548	書店
			柏書房	3,670	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
都市デザイン	都市の計画と設計 まちづくりデザインの プロセス	小嶋勝衛 監修 日本建築学会 編	共立出版 丸善	3,465	書店 (都市計画研でも扱っています)
				1,995	書店
不動産企画及び演習Ⅰ、Ⅱ 建築企画設計	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル	エクснаレッジ編集部	(株)エクснаレッジ	4,935	書店
建築法規Ⅰ 短大建築法規	基本建築関係法令集 上巻 (法令編) 平成18年版 建築法規用教材 2006年版	建設省住宅局建築指導課 日本建築学会 (建築法制 委員会) 編	霞ヶ関出版	未定	書店もしくは指定さ れた日に購入
			日本建築学会	未定	書店
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門 建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著 大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
			大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内
建築史Ⅰ	日本建築図集	小林文次 他	相模書房	2,625	建築史研究室 (ガイダンス時に案内)
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
建築史Ⅱ、Ⅲ	図説 近代建築の系譜 日本の近代建築(上,下) 図説 近代日本住宅史 建築モダニズム 近代和風を探る(上,下)	大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史研究室 (ガイダンス時に案内)
		藤森照信	岩波新書	各651	書店
		大川三雄 他	鹿島出版会	3,360	書店
		大川三雄 他	(株)エクснаレッジ	3,150	書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集 新建築学大系 3 東洋建築史	日本建築学会 編	彰国社	3,255	建築史研究室 (ガイダンス時に案内)
			彰国社	7,088	書店
環境工学Ⅰ	建築環境工学[改訂2版] 建築環境工学用教材 環境編	田中俊六、武田 仁 他 日本建築学会	井上書院	3,150	書店
			日本建築学会	1,890	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	井上研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版 その他 (検討中)	日本建築学会 編 —	技報堂出版 —	4,725 —	井上研究室 (ガイダンス時に案内) —
建築設備Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	建築設備概論 環境工学用教材 設備編 空気調和設備の 実務の知識 給排水・衛生設備の 実務の知識 暮らしの技術としての 建築設備入門	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
		空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
		空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
		吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建設学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
デザイン基礎	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	田所研究室 (545B)
	コンパクト建築設計資料集成(住居)	日本建築学会 編	丸善	7,035	書店
建築計画Ⅰ, Ⅱ	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,500	書店
	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室 (1357)
建築史Ⅰ	日本建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545B)
建築史Ⅱ	西洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	2,415	田所研究室 (545B)
	マトリクスで読む20世紀の空間デザイン	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
デザイン論	マトリクスで読む20世紀の空間デザイン	矢代真己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	田所研究室 (545B)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉 監修	理工図書	4,893	内藤研究室 (926B)
建築材料	建築材料用教材 第2版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	建築教室事務室 (915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
	建築応用力学 改訂版	小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
	応用力学演習問題解析法	西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習(上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学(下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習(下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に指示
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,940	黒木研究室 (546A)
構造設計法	新版 わかりやすい鉄筋コンクリート構造の設計	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,570	内藤研究室 (926B)
	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	日本建築学会 編	日本建築学会	5,880	書店
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
木質構法	3階建てまでできる記入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
空間デザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (546A)
	建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (546A)
	図解事典 建築のしくみ	建築図解事典編集委員会 編	彰国社	3,990	黒木研究室 (546A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	住宅の環境設計データブック	日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	早川・蜂巢研究室(453)
	建築環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
環境の計画と技術	人間住宅	建築・都市ワークショップ 編	INAX出版	1,890	ガイダンス時に指示
	住まいの環境学	梅干野 晃	放送大学教育振興会	3,364	書店
	福祉住環境コーディネーター検定試験3級テキスト	東京商工会議所 編	東京商工会議所検定事業部検定センター	1,890	書店
	環境教育用教材 学校のなかの地球	日本建築学会 編	日本建築学会	2,100	吉野研究室 (545A)
福祉住環境概論	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト	TAC福祉住環境研究会 編	東京商工会議所検定事業部検定センター	1,890	ガイダンス時に指示
	福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所 編	TAC株 出版事業部	1,680	ガイダンス時に指示
	3級過去問題集一発合格				
情報処理	はじめて学ぶC言語入門	斎藤奈保子, 渡部由利, 宮本英美	実教出版	2,100	書店

平成18年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部)

調子 秀恭
唐木 純子
小林 良典
今井 究
小野 晋

神内 佑大
加藤久美子
瀧口 優
下松 聖和
杉山幸一郎

金澤 昭 (短期大学部)
鶴岡 信人 (短期大学部)
丸茂 友美 (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

- 〈修士論文〉前坂 彰子 「大学校舎のソーラーチムニーの換気性能評価と設計法に関する研究 —実測による自然換気量評価と数値解析によるチムニーの流路特性および構成材の検討—」 指導：早川 眞教授
牛坂 伸也 「慣性接続要素による周期伸長効果を利用した建物質量同調制振に関する研究」 指導：石丸辰治教授

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

- 〈修士論文〉チェン ラター 「クメール寺院建築の建築技術の発展過程及びその構法の特徴に関する研究 —プレ・アンコール期からアンコール初頭期（7世紀初頭～10世紀末）のレンガ造遺構を中心として—」 指導：片桐正夫教授・重枝 豊助教授
〈修士設計〉山田 明里 「浅草隅田川河畔における芝居空間の提案 —平成歌舞伎小屋の設計を通じて—」 指導：本杉省三教授

駿建賞*4 (大学院)

- 〈修士論文〉小林 秀彰 「騒音下における音声聴取に着目した室内音場評価法に関する研究」 指導：井上勝夫教授，橋本 修助教授
古谷 聡子 「高度医療を受療する子どもと家族の滞在施設の建築計画に関する研究」 指導：本杉省三教授，八藤後 猛専任講師
〈修士設計〉安藤 誉 「秩父セメント第2工場跡地再生計画 —秩父芸術文化街構想—」 指導：横河 健教授
大塚 映司 「地域教育拠点としてのラーニングセンターの設計 —公共図書館を複合した開放型小中一貫校の提案—」 指導：横河 健教授

駿構賞*5 (大学院)

- 〈修士論文〉瀧口真衣子 「テンション材のアイエンド金物の強度に関する実験的研究」 指導：齋藤公男教授，岡田章助教授
吉野 誠一 「片持式スタンダードーフの空力特性に関する基礎的研究 —風荷重低減方法の提案—」 指導：齋藤公男教授，岡田章助教授

桜建賞*6 (学部)

- 〈卒業論文〉石井亜矢子・大前 亜衣・和田 郁恵 「帰宅困難者支援に関する研究 —東京都千代田区における支援のあり方について—」 指導：三橋博巳教授
井口 友孝・山本康太郎 「伝統的養蚕型建築（旧加藤家）における温熱・空気環境の実態とメカニズムの検討」 指導：吉野泰子短大教授
内久根佑子 「ル・コルビュジェの作品にみる開口部構成に関する一考察 ノートル・ダム・デュ・オー礼拝堂における南面壁面の開口手法の分析を中心として」 指導：重枝 豊助教授
竹内 義典 「展開式立方八面体（Cu-ron）の力学特性に関する基礎的研究 —施工性向上に着目したジョイントの提案—」 指導：齋藤公男教授，岡田 章助教授
雪吉 峻輔 「アンコール遺跡砂岩の材料学的研究」 指導：清水五郎教授
〈卒業設計〉祖父江一宏 「Millefeuille yuka/kabe/yane —地形（環境）が生み出す床・壁・天井の多様な環境による都市—」 指導：今村雅樹教授
〈短期大学部卒業制作〉田島 寛 「MAKE UP —まちをつなぐ多面体空間—」 指導：小石川正男教授，黒木二三夫助教授
中野 透 「TRINITY —神田市場・人と場がつながる空間—」 指導：小石川正男教授

企画奨励賞*7 (学部企画経営コース)

小林 弘典・櫻井 恵介・櫻井健太郎 「テ+ネットワークプロジェクト」 指導：企画経営コース専任教員

奨励賞*8 (大学院及び学部)

- 〈修士論文〉 小林 方美 「音楽ホールにおけるステージから遠く離れた反射面の音響効果」 指導：関口克明教授，羽入敏樹短大専任講師
- 中島 祐介 「沿道地区における形態規制方策に関する研究 —東京都特別区における「沿道指定地区計画」に着目して—」 指導：根上彰生教授・宇於崎勝也助教授・川島和彦専任講師
- 河村 準 「動的解析による偏心RC造3層骨組のねじれ挙動に関する検討」 指導：白井伸明教授
- 〈卒業設計〉 小野 志門 「Hotel Mokumitsu —ある建築の終わりと始まりに関する話—」 指導：佐藤光彦助教授

桜工賞*9 (学部)

- 鍋木 智恵 「理工学部サークル『こどもと一緒にデザインしよう会』の会長として活躍し、千代田区内の小学校、児童館、各種イベントに参加して区民から感謝された」 八藤後研究室
- 竹本 孝輔 「学部祭（青駿祭）において構造デザイン研究会の部長として活躍し、卒業アルバム委員としても中心的役割を果たしてクラスに貢献した」 斎藤研究室
- 中島 行雅 「『2006年 シェルター学生競技設計2006』に入賞」 今村研究室
- 丹羽 紘子 「理工学部アメリカンフットボールチームのマネージャーとして関東選手権大会優勝に多大な功績をした。また、千葉県内大学ガイダンスセミナーのコンダクターを務めたり、オープンキャンパス他各種学部行事に多大な貢献をした」 岡村研究室
- 古島 ゆり 「保健体育審議会応援リーダー部に所属し、4年間箱根駅伝ほか各種大会に応援として出場し、監督推薦により総務を担当して部活の中心的役割を果たした」 渡辺研究室
- 清水 美希 「理工学部公式庭球部に所属し、『関東理工科大学公式テニスリーグ戦』に4年間選抜出場し、個人戦で優秀な成績を残すとともに、部長として部の発展に貢献した」 井上研究室
- 祖父江一宏 「2006年12月、東京ガス主催“第20回建築環境デザインコンペ”にて『21世紀におけるノアの箱舟』で佳作入選した」 今村研究室
- 河村 準 「2006年度理工学部学術講演会（構造・強度部会）において『ファイバーモデルを用いた偏心を有するRC3層骨組みの動的解析』を発表し、優秀発表賞として86編の中から選ばれた」 白井研究室
- 小林 亜里 「クラス幹事として、各種学部行事に貢献」 短期大学部
- 高橋 広希 「卒業に向けた各種行事のクラスまとめ役として」 短期大学部
- 千葉妃加里 「オープンキャンパス他、各種学部行事に貢献」 短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*10 (大学院)

- 加瀬 靖子 「景観法に基づく景観計画の策定プロセスと運用実態に関する研究 —近江八幡市「水郷風景計画」を対象として—」 指導：横内憲久教授，岡田智秀専任講師

日本環境管理学会・木村賞*11 (大学院)

- 田中 洋平 「オフィスビルの建築物総合環境性能評価とライフサイクルコストに関する研究」 指導：三橋博巳教授

学部長賞 〈学術・文化部門〉

- 加納 基喜 「平成18年度（第39回）照明学会全国大会優秀ポスター発表者賞」受賞による。 所属：関口研究室

- *1 学部4年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与される。
- *2 大学院博士前期課程（構造系及び環境系）の優れた研究に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築系より授与するもの。本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。
- *3 大学院博士前期課程（設計・計画系）の優れた研究論文及び設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与するもの。戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。
- *4 大学院博士前期課程の計画系及び環境系分野の優れた研究論文及び設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与するもの。
- *5 大学院博士前期課程の構造系分野で優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与するもの。
- *6 学部の卒業研究論文及び卒業設計の優れたもの6点に対し、桜門建築系より授与される。
- *7 企画経営コースの卒業企画設計の優れたものに対し、企画経営コース同窓会より授与。
- *8 大学院博士前期課程の優れた研究論文に対して、工科校友会からの寄金に基づき、建築教室より授与するもの。建築学科卒業設計の優秀作品に対し、工科校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与するもの。
- *9 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、工科校友会より授与。
- *10 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年（平成10年3月1日死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金、平成11年度で定年となった浅香勝輔非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。
- *11 日本環境管理学会名誉会長 木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成7年度新設、旧・日本環境管理学会会長賞）

- 齋藤賞基金 齋藤謙次先生の寄金を元に設立され、齋藤賞委員会によって運営されているもの。佐藤進先生、榎並昭先生よりの寄金も加えられた。
- 駿建賞基金 本学を退任された小林文次、官川英二、近江栄、小谷喬之助、木村翔、若色峰郎の各先生方より寄せられた基金。
- 駿構賞基金 本願順二郎、榎並昭の両先生からの寄金を元に、構造系教授の寄金によって運営される基金。
- 建築学科顕彰基金 本学の退職者を対象に、在籍期間に応じた寄付をお願いする形で運営する基金。2006年度に若色峰郎先生より寄付をいただいた。

平成18年度 修了生・卒業生研究課題一覧

大学院博士後期課程

氏名	論文題目	
主査：斎藤公男教授，副査：半貫敏夫教授・清水五郎教授		・建築学専攻・
田中 晃	張弦シザーズの仮設構造への適用性に関する研究 — 一人力による建方を考慮したヴォールト屋根の構造挙動について—	
主査：関口克明教授，指導：八藤後 猛専任講師		・建築学専攻・
橋本彼路子	高齢者や障害者における建築物の障壁評価に関する基礎的研究	
主査：本杉省三教授，指導：八藤後 猛専任講師		・建築学専攻・
木下 晃一	医療施設における水治療法関連諸室の利用と計画に関する研究	
主査：横内憲久教授		・不動産科学専攻・
大越 正之	ウォーターフロントにおける土地区画整理事業の整備要件に関する研究	

大学院博士前期課程

氏名	論文題目	
安達俊夫教授		・建築学専攻・
木原 朋広	山留め壁に作用する掘削側地盤の土圧特性に関する実験的研究	
佐藤 隆	小規模建築物基礎に用いるテーパー杭の支持力特性に関する実験的研究	
平 真人	非液状化層厚の影響を考慮した簡易液状化被害予測に関する研究 — 有効応力解析による検討—	
松原 宗佑	サブストラクチャ・オンライン応答実験による建物と地盤の動的相互作用に関する研究	
石丸辰治教授		・建築学専攻・
牛坂 伸也	慣性接続要素による周期伸長効果を利用した建物質量同調制振に関する研究	
北村 尚久	伝統木造建築の制震改修法に関する研究 — ある鐘楼の制震改修について—	
倉形 純一	増幅機構を用いた塔状構造物の制震に関する研究 — 張力導入型トグルを用いた場合—	
井上勝夫教授・橋本 修助教授		・建築学専攻・
浅野 裕子	鉄道駅における視覚障害者の触覚・聴覚情報利用に関する実態調査	
小林 秀彰	騒音下における音声聴取に着目した室内音場評価法に関する研究	
半崎 亨	住宅内における磁界強度の計測と実態評価	
松本 久美	小学校建築における主要空間の発生音特性と室間遮音性能に関する検討	
井上勝夫教授・八藤後猛専任講師		・建築学専攻・
長島 梢	筋萎縮性側索硬化症者の住環境整備に関する研究	
今村雅樹教授		・建築学専攻・
金 源鎮	国際市場の再生による韓国釜山広域市中区地域の再活性化計画 — 集住体と市場コンプレックスによる既存商業地域の都市型コミュニティの設計—	
飛田 久恵	中央区勝どき5丁目のコミュニティ再生を目的とした都営住宅建て替え計画 — 福祉系施設を集住体と複合プログラム化した地域住民施設の設計—	
藤平 真一	公共交通機関と融合した地域活動の拠点となる複合型公共施設の設計 — 横浜市本牧地域における地域住民施設と土木的要素を持つ交通施設の再構築計画—	
吉本 雅俊	住民のコミュニティ活動を活性化させる豊島区役所新庁舎の建替計画 — 新しいオフィス機能と地域開放系コミュニティ機能を合わせ持つ都市型コミュニティセンターとしての区役所の設計—	
片桐正夫教授		・建築学専攻・
上田 浩子	アンコール寺院の基壇形態にみる空間構成と計画の変遷に関する研究	

—主にピラミッド型の寺院について—

- チェン ラター クメール寺院建築の建築技術の発展過程及びその構法の特徴に関する研究
—ブレ・アンコール期からアンコール初頭期（7世紀初頭～10世紀末）のレンガ造遺構を中心として—
- 牧野 徹 アンコール寺院建築における中央祠堂及び拝殿の建築空間構成の変化・発展に関する研究
—10世紀から13世紀の寺院について—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也助教授・川島和彦専任講師 ————— ・建築学専攻・

- 齋藤 真理 公共施設づくりにおける住民参加の実態とその評価に関する研究
—住民活動拠点としての地域コミュニティ施設に着目して—
- 徳江 明宏 地域資源による地域活性化方策に関する研究 —三鷹市、掛川市、旧川西町のまちづくりを通して—
- 中島 祐介 沿道地区における形態規制方策に関する研究 —東京都特別区における「沿道指定地区計画」に着目して—

斎藤公男教授・岡田 章助教授 ————— ・建築学専攻・

- 韓 永輝 4点突上げ式ホルン型膜構造のボンディング現象に関する基礎的研究
- 櫻井 優貴 ドーム型張弦シザーズ構造の構造特性に関する基礎的研究
- 瀧口真衣子 テンション材のアイエンド金物の強度に関する実験的研究
- 廣石 秀造 集積型テンションヴォールト構造の構造特性に関する研究
- 宮下 正人 レンズ型二重空気膜構造の強風時の構造挙動について —膜面の風圧測定と動的応答解析手法の提案—
- 森永 信行 テンセグリック式切頂二十面体の提案と仮設空間への適用性について —構造性能の検証と施工方法の提案—
- 吉野 誠一 片持式スタンドルーフの空力特性に関する基礎的研究 —風荷重低減方法の提案—

清水五郎教授 ————— ・建築学専攻・

- 内川 陽平 凝結遅延制御によるコンクリートの打ち込み計画の適正化に関する研究
- 大塚 秀三 ごみ溶融スラグ細骨材の品質変動とコンクリートへの適用に関する研究
- 那須 義範 石炭溶融水砕スラグの構造用コンクリートへの適用に関する研究

白井伸明教授 ————— ・建築学専攻・

- 河村 準 動的解析による偏心RC造3層骨組みのねじれ挙動に関する検討
- 杉 太地 画像計測法を用いた変位およびびびり割れ幅計測結果に基づくRC部材の損傷評価
- 藤城 好将 グラウト材を用いた補強接合部の性能評価実験と解析的検証

関口克明教授 ————— ・建築学専攻・

- 王 岩 養蚕型建築に対応した伝統民居の温熱・空気感鏡の実態とそのメカニズム
- 金子 幸代 児童の住意識形成の要因とこれからの住環境教育
- 加納 基喜 ピクトグラムを用いた室内サイン計画の現状評価と改善方法
- 小林 方美 音楽ホールにおけるステージから遠く離れた反射面の音響効果
- 松崎 温子 LDK空間の構成要素が調理時の熱伝搬性状に及ぼす影響

高宮真介教授 ————— ・建築学専攻・

- 石田 哲也 地域施設と複合した情報拠点としての巣鴨駅の提案
- 小堤 公伯 見沼代親水公園駅における地域施設を内包したモノレールステーションの設計
- 西脇 梓 既存ファサードを活用した旧千住郵便局電話事務室再生計画
- 渡邊 結衣 中野区野方地域における「ドロップセンター」 —子育て支援を中心としたコミュニティセンターの設計—

高宮真介教授・渡辺富雄助教授 ————— ・建築学専攻・

- 鷹野 悦子 地域コミュニティの拠点としての小学校の設計 —中野区・桃園第三小学校をケーススタディとして—
- 樋渡 敬之 多様な葬送行為に対応した新しい葬祭場の設計 —朝霞キャンプ跡地を活用して—

早川 真教授 ————— ・建築学専攻・

- 前坂 彰子 大中学校舎のソーラーチムニーの換気性能評価と設計法に関する研究
—実測による自然換気量評価と数値解析による流路特性および構成材の検討—

- 半貫敏夫教授
佐藤 寿樹 床下空間の空隙率を変数とした高床式建物模型周囲の吹きだまりに関する実験的研究 ・建築学専攻・
- 半貫敏夫教授・秋山 宏教授
新井佑一郎 遷移温度に注目した従来型スカラップ工法柱梁接合部の塑性変形能力評価
芹澤浩次郎 鉄筋コンクリート梁のエネルギー吸収特性に関する実験的研究
中島 敏 高軸力下における鋼構造露出型ピン柱脚の地震時挙動 ・建築学専攻・
- 三橋博巳教授
加島 靖之 建物周囲の雪の吹きだまりに関する研究 ―雪の吹きだまりと気流の加速度分布の相関について― ・建築学専攻・
- 本杉省三教授
佐藤 良 地域文化遺産評価の多元化に向けた価値認識指標について
―経済的評価法CVMを利用した定量的評価と定性的評価の融合による一般市民の価値認識構造の明確化―
村上潤一郎 コンパクトシティを目指したトランジットモールの導入に関する研究
―前橋市銀座通りと金沢市横安江町商店街を事例として―
深澤 一義 三鷹市民センター再生計画
山田 明里 浅草隅田川河畔における芝居空間の提案 ―平成歌舞伎小屋の設計を通じて―
山村 一仁 王禅寺資源循環交流公園の設計 ―自立循環型都市のためのコミュニティコアの提案― ・建築学専攻・
- 本杉省三教授・渡辺富雄助教授
篠邊 雅仁 一般開放学校屋内プールの建築計画に関する研究 ―東京区部25施設の事例調査を通して― ・建築学専攻・
- 本杉省三教授・八藤後 猛専任講師
平山 清美 身体負荷から見た高齢者の便座立ち座り時に使用する手すりのあり方に関する研究
古谷 聡子 高度医療を受療する子どもと家族の滞在施設の建築計画に関する研究 ・建築学専攻・
- 横河 健教授
安藤 誉 秩父セメント第2工場跡地再生計画 ―秩父芸術文化街構想―
犬塚 映司 地域教育拠点としてのラーニングセンターの設計 ―公共図書館を複合した開放型小中一貫校の提案―
栗本 賢一 品川区北品川地区小中一貫校計画 ―ひだ空間を活用した子どもの遊び環境および学習環境の創出―
篠原 祥子 多摩ニュータウン永山4丁目団地再構築計画 ―インフラを内包する建築連続体の提案―
林 正史 築地市場の移転に伴う築地場外市場の更新計画 ―地域活性化計画のための都市住宅と地域施設の設計―
馬瀬 充朗 渋谷東急文化会館建替計画 ―シャワー効果に於ける文化機能の再配置による都市型商業施設の設計―
井上 学 港北ニュータウンにおける多世代交流施設の設計 ―周辺環境の空間特性を用いた市民活動拠点の提案― ・建築学専攻・
- 宇杉和夫助教授
伊藤 博昭 「山たて」からみる景観把握の手法に関する研究 ―風景図絵の景観構成の分析を通して― ・建築学専攻・
- 三橋博巳教授
木村 公一 市街化調整区域における農用的土地利用に関する研究 ―古河市三和地区を対象として―
姜 明植 中国における経済適用住宅政策に関する研究 ―大連市を対象として―
田中 洋平 オフィスビルの建築物総合環境性能評価とライフサイクルコストに関する研究 ・不動産科学専攻・
- 横内憲久教授
加瀬 靖子 景観法に基づく景観計画の策定プロセスと運用実態に関する研究
―近江八幡市「水郷風景計画」を対象として―
花野 修平 都市港湾の公共空間における「賑わい活動」の実施要件に関する研究
―京浜港における公共空間の利用実態を通じて― ・不動産科学専攻・

学部

氏名の右肩 *印は企画経営コース。

氏名	論文題目		
安達俊夫教授・山田雅一助手			
池田 光隆	非液状化層厚の影響を考慮した簡易液状化被害予測法に関する基礎的研究 —有効応力解析による検討—		
工藤 純	} 円形せん断土槽を用いた地盤のオンライン応答実験に関する研究 —地盤変形の一様性の検討—		
蒔野 佑治			
柴垣 聡太	震災直後の災害情報の現状の取り組みに関する調査研究 —千代田地区の場合—		
白井 奈奈	建物と地盤の動的相互作用に関するオンライン応答実験		
関 譲治	山留め壁に作用する粘性土の平衡土圧に関する基礎的研究		
益田 雄平	電柱リサイクル材の支持力特性に関する基礎的研究		
室濱 崇	各種液状化予測法の適用性に関する研究		
太田 宏	セメント改良砂の強度・変形特性に関する研究 —長期材齢における一軸圧縮強度の推定方法—		
金野 淳也	セメント改良砂の強度・変形特性に関する研究 —破壊規準—		

石丸辰治教授・石垣秀典専任講師			
金尾 憲樹	} DMVダンパーを用いたトグル制震装置の基礎的研究		
高橋 賢光			
長原 恵美	} 慣性質量効果を利用した戸建て免震システムに関する研究		
小林 良典			
佐藤 博之			
長沢 徳明			
柳崎 尚輝			
山口 敦史			
大野 雄作	大学キャンパス内における地震防災情報システムに関する基礎的研究 —地震情報Webサイトの構築—		
福田 明弘	柱脚が固定されていない小規模木造建築物の制震効果に関する模型実験		

井上勝夫教授・橋本 修助教授・富田隆太助手			
安藤 拓也	} 都市における熱・音環境に関する実験的研究		
加藤 弘之			
調子 秀恭	} 居住性からみた歩行感と床振動に関する基礎的研究		
伊東 和			
野中 玲	鉄道駅における視覚障害者に対する情報提示のあり方に関する基礎的検討		
岩下 将也	} ノイズ音場における電気音響調整を用いた拡声音制御の検討		
及川 究			
渡辺 佳英	} 大型スラブ及び乾式二重床における重量床衝撃音の低減について		
荻野 将弘			
奥村 晃史			
山中 一生	} 集合住宅における子供の住まい方と営業担当者の説明責任		
木村 健			
中西 啓			
清水 美希			
西原 啓太	} 住宅内の磁界強度の計測と評価		
倉田 健一			
浅野 純	} 講演時における話者の『話しにくさ』に寄与する要因の抽出		
中澤 正樹			
峯村彩代子			

西 健一朗
森口 朋香
吉本 諭
野口 昌希
宮本 麻未
原田 佳和
吉田 圭祐

小学校建築の実態調査と遮音性能に関する研究
騒音下における音声聴取性能が向上する室内音響条件の検討
鉄道駅における視覚障害者の情報利用に関する基礎的研究

今村雅樹教授

浅野 友里
岩瀬 正俊
岩橋 美穂
大島 可菜
瀧口 優
中島 行雄
畑中千賀子
谷内 朝美
祖父江一宏
滝瀬千紗子

君は渋谷の街に何を見るか —渋谷駅前連絡通路再生と渋谷の他者との距離に関する提案—
across the pass 高円寺南保育園の改修に伴う幼保一元化施設、子ども園の提案
そしてまた還ってゆく —宮下公園の再生—
雑居ビルのうたう歌 —都心における保育の場を 雑居ビル群の再構成により生み出す提案—
特異点を奏でる —地上と地下において文化複合施設を断面的に開放する—
Transfer Art Museum Hi-complex都市型美術施設の設計
Tokyo Night Museum —渋谷駅前のよるの美術館の設計—
Library Park —pubric library & common library—
Millefeuille yuka/kabe/yane —地形（環境）が生み出す床壁天井の多様な環境による都市—
居室の外 家の中 集合住宅でいかに暮らすか



片桐正夫教授・大川三雄助教授・重枝 豊助教授

〈アジア班〉

青柳 一真
井上 陽平
桂 慎也
加藤久美子
木下 洋道
小林 摩耶
齊藤 裕子

クメールピラミッド型寺院の基段部分の敷石における施工計画に関する一考察
—9世紀から10世紀の寺院遺跡の石材の配列と寸法比較—
アンコール遺跡における王道にかかる石橋の架構技術の力学的検証と施工及び設計手法に関する一考察
—Kok Rulough, Khvao, Thma, Ta Ong, Praptos より—
12世紀前半のクメール寺院遺跡におけるゴブラの変化についての一考察
—トマノン、チャウ・サイ・テボォダ、バンテアイ・サムレの比較により—
アンコール遺跡の寺院建築における周壁の機能、構成についての一考察
12世紀末アンコール遺跡の配置計画に関する研究 —EFEO配置図比較による寸法体系の考察—
12世紀クメール平地型寺院における中心軸上の視覚効果に関する一考察
バンテアイ・クディとブリア・カンの東西軸上の主通路の連続した開口部の異なる高さの敷居材に関する一考察

庄司 稔
長澤 紘人
脇田 優人
〈日本班〉
内久根佑子

Hdo Construction Techniques in South and Southeast Asia の翻訳 —後進へのメッセージ—
バイヨン北経蔵における石積み工法に関する一考察 ジャヤヴァルマンⅦ世による施工技術の解明
アンコール寺院建築における経蔵の形式の統一性についての一考察 —アンコール期の変遷より—

小川 裕子
川上 義人
佐藤 央
関口あゆ美
副島 宏介
黒崎 義基
佐藤 亮輔

ル・コルビュジェの作品にみる開口部構成に関する一考察 ノートル・ダム・デュ・オー礼拝堂における南側壁面の開口部手法の分析を中心として
資料「後楽園図誌」にみる江戸期の小石川後楽園の眺望の連続性について
中世から近世における大徳寺塔頭の建築構成の変化に関する一考察 改造、増築による空間接続手法を中心にして
大原総一郎の理想による倉敷の都市発展に関する一考察 大原孫三郎および総一郎の活動と浦辺鎮太郎の設計事例の検証を中心として
長崎の教会堂建築にみる地域差形成の過程に関する一考察 地区別にみた内部の立面構成の受容過程を中心にして
厳島神社の社殿の計画に関する一考察 本社社殿の平面柱間寸法計画を中心として
上野公園の建築物の変遷からみる上野地区の町並みについて
東大寺大仏殿と唐招提寺金堂における建築構造の推移に関する一考察 図面を中心にした再建及び修復時の建築技術における変遷を中心として



〈近代班〉

- 浅野 佳子 ル・コルビュジエ作品に見る創作的原理の考察 —自然と幾何学—
 石井 陽 絵画空間が建築空間に与えた影響に関する一考察 絵画と建築における空間概念変化について
 川村 裕子 数寄屋大工 平田雅哉の史的立場づけとその作風に関する研究 —近代における数寄屋大工の果たした役割について—
 澤田 樹 近代数寄者・益田鈍翁の茶室とその評価 —品川碧雲台・小田原掃雲台・箱根白雲洞—
 世良 泰一 近代日本の中流住宅における子供室像の変遷
 中島壯太郎 住宅作家・宮脇檀の作品の変遷とその背景〈都市への意識〉〈公私室〉〈中間領域〉の3つの視点による考察
 原田 宗広 同潤会アパートの配置計画からみる設計者のコミュニティー意識 —配置計画よりみる同潤会アパートメントの特徴とその変遷—
 松本 康靖 近代オランダ集合住宅にみるコミュニティー意識の変遷
 坂本 真純 木造モダニズム建築の特徴とその位置づけ 木造モダニズム建築の系統図に見る日本のモダニズム建築の受容とその展開
 本領 千織 有機的建築の定義とその再評価 近代建築における表現主義建築と合理主義建築との比較を通して
 樋口 文 メタポリズムの今日的意義 —大高正人の建築・都市を中心とした考察—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於嶋勝也助教授・川島和彦専任講師—



- 秋本 政博 } 法規制の変遷が街路のスカイラインに及ぼした影響に関する研究 —東京の5つの街路の実態から—
 糸川 孝幸 }
 井上 武俊 }
 足立 大介 } 木造住宅の耐震化促進のための行政支援方策に関する研究
 加藤 陽平 } —行政・事業者・市民のアンケート調査と先進自治体の実態分析を通して—
 荒木 英直 }
 沈 源 } ヴェトナム・ハノイ市旧市街地の街路空間の利用実態に関する研究
 林 泰平 }
 石森 貴久 } 商店街と地域との連携方策に関する研究 —先進商店街の実態調査—
 泉山 壘威 }
 本郷 寛和 } 神田神保町の建物用途の変遷に関する研究
 小川 幸子 }
 篠塚 裕明 } カンボジア・シェムリアップ地域における土地利用実態と計画の変遷に関する研究
 高橋 祐太 }
 小川 侑太 }
 後藤 将人 } 中国・トルファン市における歴史的街区保護に関する研究 —現状分析を中心として—
 江本やよい }
 川合 順子 }
 小野 義矩 } 地方中小都市の地域ブランド形成による企業主導のまちづくりに関する研究
 金子 卓司 } —長野県小布施町を事例として—
 澤 英俊 }
 小林 弘典 } 鉄道駅と周辺地域の一体的整備に関する研究 —整備手法に着目して—
 松本 健司 }
 吉田 隼人 }
 櫻井 恵介 } 市町村合併後における中心市街地指定の課題に関する研究 —中心市街地活性化法の改正を受けて—
 櫻井健太郎 }
 平田 直純 }
 笹部 香乃 } 屋外広告物の構成要素とその判読に関する実験研究
 布川 千夏 }
 須田 裕也 } J-REIT住宅物件の立地と地域特性の関連に関する研究 —東京23区内の251物件の分析—
 高波 雄太 }
 高柳早知子 } ガラス面に掲出された「屋内広告物」の規制手法に関する研究
 田代百合子 }

- 立川 文
仲西 功一
両田 幹夫
関 博樹
藤田 真弓
木村麻里子
和田 華子
- 横浜市中区仲通り商店街の街路整備事業に関する研究
- 千葉県市川市の市街化と都市計画道路整備に関する研究 —都市計画道路3・4・18号に着目して—
- 秋葉原における建物用途実態に関する研究

齋藤公男教授・岡田 章助教授

- 赤岩 英和
李 禧珠
河野 俊作
川又 哲也
木村 卓生
小森 裕子
杉下 紗恵子
鈴木 達也
藤原 圭吾
竹内 義典
竹本 孝輔
立川 亮
畠山 峰行
不動 直樹
真上 結子
宮城島丈司
三好 清史
小野 晋
下村 玲
- ETFEフィルムの張力膜構造への適用性に関する基礎的研究
—農業用ビニルフィルムを用いた実験的研究—
- ケーブル構造の接合部のアイエンド金物に関する実験的研究
- ホルン型張力膜構造における略算手法の適用性について
- 張力膜構造の張力測定に関する基礎的研究
- 張弦シザース構造の施工時間短縮に向けての提案
- 4点突上げ式ホルン型張力膜構造のボンディング現象に関する実験的研究
- 1重空気膜構造における風応答に関する実験的研究
- 集積型テンションアーチに関する基礎的研究
- 展開式立方八面体 (Cu-ron) の力学的特性に関する基礎的研究
- 細径ケーブルの張力測定に関する基礎的研究
- 中間クランプ金物の摩擦力に関する基礎的研究
- 模型を用いた建築構造教育に関する研究
- 日本における歩道橋デザインの文献的研究
- Deutsches Museum Glass Bridgeに関する研究
- テンセグリック式切頂20面体の力学的特性に関する基礎的研究
- 片持式スタンドルーフにおける風荷重低減方法に関する実験的研究
- レンズ型2重空気膜構造の風応答に関する実験的研究
- ヨーロッパと日本における駅空間の構造デザインについて



清水五郎教授

- 赤石 裕一
雪吉 峻輔
遠藤 義之
櫻村 恭平
春日 邦夫
佐藤 好文
岡部 邦行
片倉 啓輔
福岡奈々絵
米谷 拓
- ごみ溶融スラグ細骨材の物理的品質変動に関する研究
- アンコール遺跡の材料学的研究
- フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験における試料採取方法に関する研究
- 石炭溶融水砕スラグのコンクリート用細骨材としての基礎物性
- 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究
- 木質系箱形集成部材の力学的性状ならびにプレストレスによる性能の向上に関する基礎的研究
- 木質系新素材の品質評価に関する基礎的研究
- 遅延剤を用いたコンクリートの凝結特性



白井伸明教授・田嶋和樹助手

- 木下 直紀
青木 靖展
中台 雅博
久嶋 亮太
- RC造3層骨組の動的ねじれ挙動に関する基礎的研究
(その1) 偏心率の問題点および既往の文献調査
- RC造3層骨組の動的ねじれ挙動に関する基礎的研究 (その2) ファイバーモデルによる動的解析
- 鉄筋コンクリート造校舎建築物の耐震性能に関する研究 (その1) 諸指標による構造耐震指標 I_{SD} の検討
- 鉄筋コンクリート造校舎建築物の耐震性能に関する研究 (その2) 現状認識, 簡易耐震診断手法の提案



増田久美子	コンクリート構造物の耐震補強工法における接合筋ダボ作用の簡易解析モデルの提案
松井 幸平	実大RC造3層骨組の静的解析 3次元FEM解析での検討
横手 茂樹	多軸複合応力を受けるRC造梁・柱接合部に関する3次元FEM解析
青木 恒	画像計測法を用いたRC梁部材の損傷評価に関する研究 (その1) スキャナによるRC梁部材の変形成成分計測
原島 直輝	画像計測法を用いたRC梁部材の損傷評価に関する研究 (その2) 耐力低下時のせん断変形に関する検討
井上 正紀	画像計測法を用いたRC梁部材の損傷評価に関する研究 (その3) せん断ひび割れ幅による変形成成分の評価
西尾 竜司	グラウトの力学特性および接合部におけるせん断すべり挙動 (その1) 圧縮強度及び割裂引張強度に関する検討
平田 将也	グラウトの力学特性および接合部におけるせん断すべり挙動 (その2) 圧縮破壊及び引張破壊エネルギーに関する検討
中島 高晴	グラウトの力学特性および接合部におけるせん断すべり挙動 (その3) コンクリートとグラウトのせん断応力に関する研究
柏木 淳子	グラウトの力学特性および接合部におけるせん断すべり挙動 (その4) 鋼とグラウト接合面の付着特性に関する研究



関口克明教授・吉野泰子(短大)教授・羽入敏樹(短大)専任講師

伊藤木の美	}	キッチンタイプの相違による調理時の熱伝播性状に関する研究
植木 知里		
蒲健 太郎		日本音楽と西洋音楽における楽曲と演奏空間の関係性
河合 晃	}	住環境教育における気候風土と住意識形成に関する研究
川原 広幸		
木村亜希子		日本の住宅における照明環境の実態
山田 聖典		日本の照明環境の現状と明るさへの意識に関するアンケート調査
山田 未央		室内環境要因が求める明るさを与える影響
星 友祐	}	木漏れ日を模した窓装置に関する研究
宮入 俊文		
守屋 綾子		ピクトグラムを用いた室内サイン計画の現状
吉武 愛美		サイン計画従事者の色利用意識とピクトグラム設置の状況
矢口 麻里	}	病室の窓に関する建築環境改善のための現状調査
米山 晶子		
馬場仁太郎	}	調剤薬局における服薬指導時のスピーチプライバシー保護
三宅 綾子		
井口 友孝	}	伝統的養蚕型建築(旧加藤家)における温熱・空気環境の実態
山本康太郎		
佐藤 瑠美		吹奏楽と管弦楽の最適音場条件の違いに関する検討



高宮眞介教授・佐藤慎也助手

青島 充	「シジョウ」から「イチバ」へ —淀橋市場再生計画—
市塚 祐輔	高架下層scape —川辺における都市型防災公園—
一條 真人	靖国神社に変わる新たな戦没者慰霊施設的设计
小貫 真志	都市における内部街区の提案 —神田神保町ビル群をモデルに—
志津 太一	低層住宅と高層ビル —土地の所有権を保ちつつ行う再開発の計画—
杉山幸一郎	壁間を読む —ユニット群建替えに伴う大学セミナー・ハウス再編計画—
田所 紘樹	川越商店街およびその地区の利用計画 —児童館を核とした分散型教育施設的设计—
中野 義基	そとをみてみれば —都営角筈アパート跡地利用計画 外部空間を活用した集合住宅的设计—
福井 啓介	警察大学校跡地・防災公園計画 —メイド フロム ショリジョー—
北條 匠	市川市本行徳地区再生計画 —都市における緑化公園と建築の共存—
萩原 玲子	community tube. —廃校活用プロジェクト—

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師

石倉 裕美

日本大学理工学部14号館ソーラーチムニーの性能に関する研究
—ソーラーチムニー構成材の熱容量が処理風量に及ぼす影響—



太田 真哉
森田 英和

天空率評価による容積率緩和の建物が街路空気質に及ぼす影響に関する研究

小澤 弦
加藤 清

リターンバイパス方式による置換空調の運転特性 —二酸化炭素濃度・温熱環境の評価—

高木 慎介
武山 弘憲

理工学部駿河台校舎7号館の水蓄熱システムの改良に関する実験的研究

内藤 千明

築30年超の集合住宅のライフサイクルコストの分析
—千葉ガーデンタウンをモデルとした建物の維持管理コストの研究—

佐々木裕輔
浅野 紀章

日本大学理工学部14号館ソーラーチムニーの性能に関する研究
—自然換気量とセーブ電力量評価及び多数室換気計算による現状把握と改善提案—

北川 裕之
関 大知

高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化に関する研究 —ダブルスキン建築の内壁面—

河西 裕耶

高層建物への自然換気の導入条件の研究 —2005年の大気汚染質の鉛直分布—

上園誠志郎
松村 広伸

9号館ビル用マルチ空調機一斉一旦停止による省エネルギーの効果

半貫敏夫教授・秋山 宏教授

岩崎 一弘
假屋 正

建物周りの流れの可視化実験とCFD解析の比較

植田 敏弘
横前 洋介

人工地吹雪中における高床式建物周辺の吹きだまり生成実験

武田 萌
平田 稔

木造住宅の耐震診断に関する研究 その1 合板壁の耐力実験

木造住宅の耐震診断に関する研究 その2 合板壁の耐力推定法

林 大樹
成島 亮太

木造住宅の耐震補強に関する研究 その1 各種筋かい壁の耐力実験

木造住宅の耐震補強に関する研究 その2 筋かい壁の耐力推定法

村岡宏多朗
加藤 寛之

高軸力下における露出型ピン柱脚の構造特性に関する実験 その1 実験概要

高軸力下における露出型ピン柱脚の構造特性に関する実験 その2 実験結果

岡田 拓也
早船 智紀

鋼構造柱梁接合部要素の延性破壊 —脆性破壊遷移実験



三橋博巳教授

荒井加奈子
石井垂矢子

多摩ニュータウンの老朽化した団地再生に関する研究 —永山団地を対象として—
帰宅困難者支援に関する研究 —東京都千代田区における支援のあり方について—

大前 亜衣
和田 郁恵
市坪 直美

環境共生住宅の現状に関する調査研究

小俣 理恵
楠本 直樹

SPC法の現状調査と資産担保証証券市場への影響

朽木 雄史
瀬川 諭

自主防災組織の問題点と対策・提案 —東京都墨田区を対象として—
都市緑地に関する研究 —東京23区の緑被率に着目して—

高橋 智仁
豊田 真巳

高層建築物における火災に関する研究 —東京都の火災事例にみる問題点—
分譲マンションの建替えに関する研究 —建替え実施事例について—

唐木 純子

家屋の固定資産税に関する研究 —家屋の判例を中心に—

固定資産税の家屋評価に関する研究 —経年減点補正率の歴史的変遷と課題—



本杉省三教授・佐藤慎也助手



- 入交 由佳 渋谷東急東横線高架跡を再利用した渋谷駅前託児所の設計
—高架跡・渋谷川を利用した空間と企業が利用できる託児所の提案—
- 岩本 光太 Prevent Care Center project in Atami
—リハビリテーション施設と医療系専門学校の複合施設の提案—
- 竹久 枝利 地域における文化活動と施設利用に関する研究 —浦安市の文化団体活動を通して—
- 田村 佳久 都市郊外における住機能と農業の融合 —ベッタウンから田園居住区への変換—
- 鶴田 裕人 浦安緑化project —ランドスケープの中の住宅のあり方—
- 西村 朋之 再開発事業に伴う下北沢駅空間の提案
—街と地下駅の一体化及びイベント性を有する建築空間への取り組み—
- 松山 大樹 千葉都市モノレール延伸計画に伴う駅の計画
—交通インフラによる衛星都市の再構築、及び駅ビルコンプレックスによる計画地域の都市への解放—
- 山内 真哉 Tokyo Riverside Project —両国駅前の隅田川沿岸部をモデルとして—
- 渡邊 有祐 神田川護岸ビル再生計画 —オフィスビルによるビルトエンパイロメントの再構築—
- 畑田 俊明 論文：コンバージョン促進の研究 —事業展開を通して収益の見込み—
設計：文京区立中学校の設計 —少子化に伴う学校のありかた—

横河 健教授



- 熊谷 政俊 地形化する建築 21世紀型集合住宅の提案・四ツ谷若葉地区共同建替え計画
- 榎本 裕亮 The field of kids & growing up —オープンプランを活かした豊かな環境としての小学校計画—
- 桐澤 航 団地 緑豊かな外部空間を生かした団地再生
- 櫻田 和也 Ungated Communities —木造住宅密集地域再生に伴う地域防犯システムの提案—
- 鈴木 彬史 KOKOROとKARADAの多様性 —境界操作と断面操作による多様性のある空間形成を目指して—
- 田尾 繁太 境界を内包する建築の都市的意義を問う 都市の境界に住むこと [wall mass architecture]
- 高橋 恵多 境界線の消失 —上野西郷会館再開発計画—
- 村瀬 友輝 都市型立体舞台 —立体街路による商業圏計画—
- 珠玖 優 温室境界面による場、風景の変容
—新宿御苑とその周辺環境の新たな境界面を形成する道に立ち並ぶ温室—
- 米山 涼子 トシノナカニハ —子育て世帯を対象とした都市居住の提案—

宇杉和夫助教授



- 小川 良輔 三田用水関連マチ景観再生に関する研究 —水路の歴史的変遷と復活へ提案—
- 仲沢 猛 東京・山の手における「地形・石垣空間」の継承に関する研究
—江戸・東京の形成過程を通じた調査と提案—
- 染谷健太郎 港区古川河岸空間再生のための調査と提案 —江戸の玄関としての三田・芝—
- 千葉 智彦 都市的路地空間における多様なコモンスペースの再構築
—高密度混合地域(港区芝・三田地区)をケーススタディとした解析—
- 田中 千絵 芝・三田地区における通学路と児童遊園をもとにした地域学習、交流空間についての研究
—子ども路地の提案—
- 安達 幸江 府中エコミュージアム —歴史と用水路の回帰—
- 高橋 孝英 地域環境学習の場としての民家の保存・活用・再生 —見沼田んぼ民家ミュージアム構想—
- 常松 幸司 原風景、産業、住宅が共存する埼玉田園都市構想の研究
—水田、沼水路、堤を活用した埼玉県菖蒲町、圏央道周辺への計画の提案—
- 津久井優太 浦和における時代の流れをふまえた公共空間の変容を踏まえたコミュニケーション空間の提案
- 中園 礼一 団地住棟・緑道景観の保全・再生に関する調査及び検討
—草加松原団地の住棟・緑道景観の保全・再生計画のために—
- 高田 望 地域密着型高齢者グループホームの考え方と現状について
- 森 暁子 乳幼児期における多年齢間交流シーンと保育環境



岡村武士助教授

- 稲月 卓 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—その1 NMCの力学的・化学的性質（Type VII）—
- 猪狩 睦子 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—その2 NMCの空隙構造に及ぼす複合材の性質（Type VII）—
- 森田 沙貴 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—その1 微視構造と強度との関係—
- 丹羽 紘子 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—その2 細孔構造と細孔径—
- 阿部真一郎 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—その3 力学的特性に影響を与える複合材の性質—
- 山崎 純一 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—廃石膏ボードの複合材としての有効性について—
- 藤谷 優美 自然素材を細骨材と内割置換したコンクリート（NMC）の性状に関する研究
—エキスパートシステムによるNMCの評価方法—
- 片田 雅人 MUSEUMの実際に関する研究 —その1 理工系ユニバーシティミュージアム像—
- 山内 秀美 MUSEUMの実際に関する研究 —その2 教育普及活動から見るユニバーシティミュージアム—
- 長尾 美穂 MUSEUMの実際に関する研究 —その3 計画的観点から見るCST MUSEUM—
- 山田菜穂子 MUSEUMの実際に関する研究 —その4 ユニバーサルデザインから見るCST MUSEUM—
- 永留由記子 MUSEUMの実際に関する研究 —その5 サイン計画から見るCST MUSEUM—



佐藤光彦助教授

- 浅岡 翔太 コウバ×コドモ=サイセイ
- 井上 慶 波が割れ、忘れられた森が現れる —原宿・竹下通りにおける公共的商業建築の提案—
- 小野 志門 Hotel Mokumitu —ある建築の終わりと始まりに関する話—
- 斉藤奈津美 丸の内の街並み変遷 —街並みの軒高に注目して—
- 神内 佑大 農／都市／農業 —都市に農の展望—
- 中村 太一 Curtain / Wall —東急東横線廃線跡地（桜木町—高島町）再開発計画—
- 中村 裕太 TOKYOTOWER CONVERSION
- 成田 愛 伸びる街。上へ、上へと。
—小田急小田急線経堂駅東側開発地区における楼閣公共施設とコミュニケーション環境大系の提案—
- 森川 龍一 亀有駅前再開発 —街区内道路挿入による商店の有機的結合—
- 横井 創馬 72 season's box



渡辺富雄助教授

- 石井 宏明 自在家族を形成・許容する長個室群連続住居の提案
—様々な外との関係を持った5 + 1の個室群 Ramble dwelling—
- 木幡さくら 藤沢市における地域交流活動の拠点施設
- 白岩 隆治 「子どもの空間」から地域社会と小学校を考える —巢鴨地区・清和小学校におけるケーススタディー—
- 中山 祐紀 Community Sports Center in OYAMA —スポーツを核とする地域交流施設の設計—
- 古島 ゆり eco midori school —緑溢れる活発なエコ小学校の計画— 杉並区立西田小学校によるエコスクール化
- 牧田 学 世田谷沿線地域のコミュニティネットワーク再生計画 —「子縁」と「路線」で繋ぐ地域施設—
- 松村 龍 Publicity of School —月島第一小学校建替計画—
- 望月美由紀 スポーツ施設と駅前のランドスケープの設計
- 森川 啓介 UNDER MEDIA —壺岸島における都市空間と集住体の提案—
- 柳川 慶太 下北沢地区における育児施設・店舗混在の低層集合住宅群の提案
- 山口 耕平 光空間によって想起される建築用途についての一考察 —SD法アンケートをとおして—
- 小島 基 現代墓地考察 —葬送行為と埋葬からみる墓地のあり方—



八藤後 猛専任講師

- 新井 恒太 わが国のコレクティブハウジングの居住実態の評価と今後のあり方に関する研究
- 大木 孝泰 } 鉄道駅に隣接した保育施設における室内環境に関する研究 —東京都認証保育施設A型を対象として—
- 星田あやの }
- 大森奈々実 異文化によるサイン認識の違いと共通化への提言
- 小原沢あかね 女性高齢者の外出先トイレ環境に関する研究
- 鍋木 智恵 教員から見た教育環境改善に関する研究 —特定行動をする児童にとって必要な空間について—
- 佐伯 亮 大都市近郊団地における地域活性化計画の研究 —茅ヶ崎市浜見平地集会所を再生の事例として—
- 江目亜紀子 } 高齢者の利用を考慮した、これからの美術館・博物館の環境整備に関する研究
- 齋藤 里美 }
- 永島 誠之 都市公園における健康遊具の安全性と配置計画に関する研究
—子どもによる目的外使用の危険性への対応—
- 阿部真寿美 } 三世同居の居住実態と住意識に関する研究 —東京都を中心とした都市部において—
- 増島 聡— }



柳田 武専任講師

- 久保田真雄 「田舎暮らし」の実態と長期滞在型施設のあり方について
- 小室 秀樹 地域交流ホールを持つ特別養護老人ホームの計画と設計 —多摩ニュータウンの福祉と緑のネットワーク—
- 佐野 芳彰 上野駅周辺の歴史的経緯と再開発の状況について
- 高橋 伸吾 JR 亀有駅周辺の現況と商店街活性化策の検討
- 鳥居 有里 遊びを通して学ぶこどもの拠点（保育園+幼稚園）の提案
- 中川 悠太 小学校における総合学習の問題点と今後のあり方について
- 服部 広路* 東京都市計画の歩みと現在進んでいる都市再開発の問題点
- 間中 利治* 東京臨海副都心の成り立ちと開発の方向性について
- 水野 泰延* 近代建築の保存・再生手法の現状と今後のあり方
- 宮本 雅幸* 国際博覧会の歴史と今後のあり方について
- 山浦 慎介* 博物館の現況と自然科学系博物館の今後のあり方について
- 水下 博明 ハウスメーカーが提供する戸建て住宅の特徴と取り組みについて

小石川正男(短大)教授・森田吉晃(短大)助教授・田所辰之助(短大)専任講師

- 鈴木嘉希津 PROPOSAL OF TERMINARL —三河田原駅再生計画—
- 砂田 珠里 川越の蔵造りとともに —まちづくりとしての再生—
- 唯木真理子 田畑・堤・河原につくる —とねがわ農業交流館—
- 馬場 里奈 みたかりビング —地域の茶の間としての生活空間—



下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)助手

- 今井 究 既往の研究を対象とした鉛直荷重崩壊に関する基礎的検討
限界状態破壊モデルの解説および検証
- 齋藤 潤 軟弱地盤上の基礎の減衰性能向上に関する実験的研究 その2 地震観測のまとめ
- 齋藤 智成 軟弱地盤上の基礎の減衰性能向上に関する実験的研究 その3 シミュレーション解析
- 佐々木達郎 軟弱地盤上の基礎の減衰性能向上に関する実験的研究 その1 基礎の材料特性および加振実験の結果
- 下松 聖和 高減衰性能を有する新たな地盤材料の力学特性に関する研究



中山 優(短大)教授・岡田 満(短大)教授・内藤正昭(短大)専任講師

- 富 匡史 南極観測隊によって打設されたコンクリートの特性と持ち帰り材料による低温環境下でのアルミナセメントコンクリート強度発現について



短期大学部

鮎川 幹
荒井 美子
有我健太郎
有阪 達久
飯田 里美
伊藤 涉
稲垣 宏司
乾 梨沙子
井上 直也
井上 記男
井上まなみ
浦井 梨紗
江花 萌
海老原崇志
遠藤 泰介
大澤 昭
大嶋 宏明
大塚 志保
大塚 直
大野彩記子
大原 英樹
大平 丈
岡本 拓
小川 智子
金澤 昭
椛島 健太
加部 悠子
川島 悠都
河村 岳明

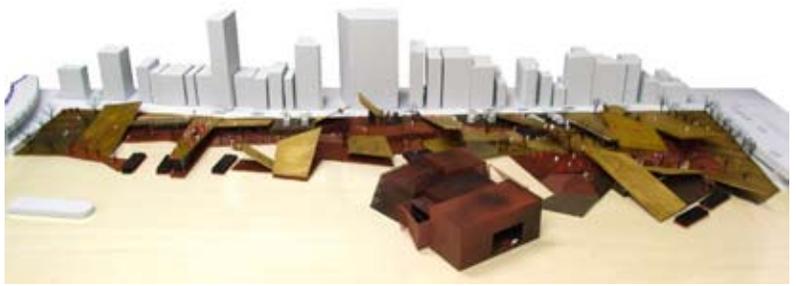
木川 正也
北岡 若奈
北隅 花瑤
北野 由樹
木下 晋輔
木本 菜実
吉良 徳泰
黒崎 真由
小林 亜里
小林 直弥
小林 博一
小林 真子
酒井 崇光
坂和 寿忠
佐藤 浩亮
佐藤 信行
佐藤茉奈花
塩野谷文貴
柴原 翔
島影 新也
清水 崇宏
菅谷 拓弥
杉浦 恭平
鈴木 義邦
須藤麻里子
高木 善裕
高館 正紘
高橋 敏也
高橋 広希

高橋 悠介
竹内 隆之
田島 寛
田中 英行
田中 雅人
千島 孝弘
千葉妃加里
千葉 悠介
鶴岡 信人
斗澤 良太
戸田 彩香
富田 洋行
中野 大地
中野 透
中村 有希
長井 隆志
長尾 信宏
南雲 春佳
新留 彰浩
二宮 彰
野田 昌吾
花塚 巖義
濱本 宣明
原口 竜士
平塚 慎吾
福田 英人
福永 藍
古畑 愛夏
細澤 明子

本田 浩志
牧野由希子
松井 基彦
丸茂 友美
丸山 陽平
三柴 秀登
水澤 洋明
道下 祐貴
峯村 祐貴
宮石 悠平
森 勝矢
矢澤 唯
山崎 将宏
山本 景子
山本 崇嗣
横山 昌平
吉益 弘之
吉村 佑允
渡邊 瞬
渡邊 貴章
有賀 伝
市村宇紀人
篠崎 史明
戸谷 陽志
守重 裕之
山城 愛生

吉田鉄郎賞 修士設計

浅草隅田川河畔における芝居空間の提案 —平成歌舞伎小屋の設計を通じて— / 山田明里



駿建賞 修士設計

秩父セメント第2工場跡地再生計画 —秩父芸術文化街構想—
/ 安藤 誉

地域教育拠点としてのラーニングセンターの設計
—公共図書館を複合した開放型小中一貫校の提案—
/ 犬塚 映司

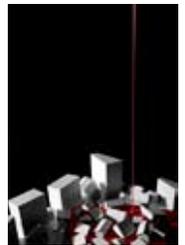


桜建賞 卒業制作

Millefeuille yuka/kabe/yane
—地形（環境）が生み出す床・壁・天井の多様な環境による都市—
/ 祖父江一宏

奨励賞 卒業制作

Hotel Mokumitsu
—ある建築の終わりと始まりに関する話—
/ 小野志門



新任教員紹介

中田善久 先生
(准教授・建築材料 I・II)

日本コンクリート工
学協会 第2回コ
ンクリートアート
ミュージアム金賞
作品「チース」



略歴

- 1965年 東京都生まれ
- 1988年 日本大学生産工学部建築工学科卒業
- 1990年 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程修了
- 1990～2000年 西松建設株式会社勤務(建築設計部, 技術研究所, 東京建築支店)
- 2001年 ものづくり大学技能工芸学部建設技能工芸学科専任講師
- 現在 同 助教授

今春から准教授として建築材料を担当することになりました。私は、大学院修了後、民間企業において主にコンクリート材料とその施工方法に関する研究や実際に建物の施工を行ってきました。建物をつくっていく、“ものづくり”の楽しさを少しでも理解してもらいたいと思っています。また、建築の材料や施工において、重要なことは経験すなわち自信とあきらめないことです。数年前に、日本大学で非常勤講師として指導をしながら、ものづくり大学の助教授として教鞭をとってきました。最近では、古典的ですが大学の醍醐味である実験をできるだけ数をこなして研究を行っております。そこから得られる知見を学生諸君と一緒に考えていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

(なかたよしひさ)

古橋 剛 先生
(准教授・振動工学)

免震構造を
採用した木
造伝統構法
による寺院



略歴

- 1978年 東京大学工学部建築学科卒業
住友建設入社、構造設計に従事
- 1983年 米国 T.Y.Lyn 事務所留学
- 1995年 免震構造設計チームリーダー
- 2001年 免震事業部技術開発部長
- 2003年 会社合併により三井住友建設
- 2005年 設計本部構造デザインディビジョン長
- 2006年 博士(工学)、日本大学

今春より、准教授として建築学科に籍を置くことになりました古橋です。私は大学を出てから、ゼネコンにて構造設計に従事して参りました。特に阪神・淡路大震災以降は、免震建物の構造設計、及び技術開発に特化して従事して参りました。

免震構造は安全で、地球環境を考慮した、持続可能な社会が求められる21世紀の時代に、長寿命の建築物を実現するための必須の建築構造技術です。同時に、時代の最高技術を組み合わせた新しいジャンルの建築実現を可能とする対震技術としても期待されています。民間企業から大学へ籍を移し、新たな立場で免震技術の研究・開発・発展に尽力して参ります。よろしく御願いたします。

(ふるはしたけし)

矢代眞己 先生
(短大准教授)



略歴

- 1983年 日本大学短期大学部建設科卒業
- 1985年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 1987年 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程建築学専攻修了
- 1987～1989年 デルフト工科大学建築学部
- 1996年 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻修了
- 2002年 BIOS

オランダ留学での中休みを挟み、11年の学生時代を本学で過ごしました。学業を終えても、出発点の短大との繋がりは持続させていただきましました。非常勤講師として教鞭を執ってきましたが、この春から准教授として着任することになりました。よろしく御願いたします。

「建築か！ 革命か！」と、血湧き肉躍っていた時代である20世紀前半に模索・追求された建築理念と、その帰結としてもたらされたデザインとの相関の読解を原点としながら、社会と建築・生活環境との関係について考える研究をしてみました。

100年前とは別のかたちで沸騰しつつある21世紀という今日の社会に見合った建築の姿を、学生の皆さんと一緒に探していきたいと思っています。

(やしろまさき)

山崎 誠子 先生
(助教・ランドスケープデザイン)



略歴

1984年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業
1984～1986年 東京農業大学農学部造園学科聴講生
1986～1991年 株式会社 花匠勤務
1990～2006年 東京デザイナー学院非常勤講師
1992年 有限会社GAヤマザキ設立
1998～2007年 武蔵工業大学工学部建築学科非常勤講師

今春より理工学部建築学科の助教となりました山崎誠子です。専門はランドスケープデザインと環境計画です。大学では建築を専攻していましたが、幼いときから花や緑に興味があったことから建築と緑が融合できることはないかと、建築から造園の門をたたきました。庭、公園、外構、緑地、景観と様々なプロジェクトを体験し、建築とランドスケープの協働発想が必要だと益々感じています。建築とともに、環境、景観、造園を当たり前で考えることができるような発想を皆さんと一緒に共有できるようにしたいと思っています。よろしく願いいたします。(やまざきまさこ)

山中新太郎 先生
(助教・建築設計、建築計画)



幸手ハウス



略歴

1968年 神奈川県生まれ
1992年 日本大学理工学部建築学科卒業
1994年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了
2001年 同専攻博士課程修了(工学博士)
2000年 山中新太郎建築設計事務所設立

本年度から建築設計、建築計画の助教として着任することになりました。私は本学を卒業して15年になります。その間、建築の設計や集落・建築空間の数理的分析などを行ってきました。現在では、まちづくりや地域計画などにも関わるようになりました。本学では3年前から非常勤講師として教えてきましたが、研究、設計、教育のどの分野にあっても、建築を考えて、建築を作るということは変わらないと思います。「建築を考えること」と「建築を作ること」は非常に近く、互いに影響を及ぼしあい、時には同義的であったりするものだと思います。これらを両立させながら、密度高く実践できるような環境を作っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。(やまなかしんたろう)

長谷川洋平 先生
(助手)



略歴

2001年 日本大学理工学部建築学科卒業
2004年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修了
2004～2006年 株式会社みかんぐみ

この度、建築設計の授業で、助手を務めさせていただくことになりました。私は大学院在籍時、そしてアトリエ事務所勤務時に、公共施設や住宅、展示会の会場構成など、いくつかの建築作品を担当し、昨年からは、個人で設計活動をはじめました。

まだまだ未熟ではありますが、今まで積んできた経験をいかし、建築の魅力を少しでも、学生の皆さんへ伝えることが、母校への恩返しになると思っています。建築設計の授業には、多方面でご活躍されている常勤、非常勤の先生がいらっしゃいます。この環境で設計を学べることは、とても幸運だと思います。私も授業のサポートをしながら、建築家として設計に取り組む先生方の姿勢を、学生の皆さんとともに学んでいきたいです。よろしく願いいたします。(はせがわようへい)

■井上勝夫教授が、3月の日本建築学会の環境工学本委員会の選挙で委員長に選出され、4月より環境工学委員長に就任された。任期は平成19年4月～平成21年3月まで。

■吉野泰子短大教授ら日本建築学会住環境教育特別研究委員会は、「環境教育用教材 学校のなかの地球」(日本建築学会編)を刊行した。小学生から大学生まで、実践プログラム例を活用されたい。

■星和磨君(環境・情報研D2)、羽入敏樹短大准教授、関口克明教授の原著論文「楕円フーリエ記述子による平面室形状の定量化」が、日本建築学会環境系論文集No.610(2006年12月号)に掲載された。

■富田隆太助手、井上勝夫教授連名の原著論文「直張り木質フローリング床を対象とした高齢者及び成人の歩行感覚と動的変位量に関する検討」が、日本建築学会環境系論文集No.612(2007年2月号)に掲載された。

■去る2007年2月3日、CSTホールにおいて、学部の卒業設計(旧カリキュラム卒業制作含む)の桜建賞等の審査会が開催された。その結果、下記の2作品が賞の対象となり、それ以外の優秀作品については作品集への掲載が決定した。

〈桜建賞〉(敬称略)

祖父江一宏(指導:今村雅樹教授)



教室ぶろむな一ど

〈奨励賞〉(敬称略)

小野 志門(指導:佐藤光彦助教)

〈作品集掲載〉(敬称略)

祖父江一宏 小野 志門

榎本 裕亮 櫻田 和也

瀧口 優 成田 愛

一條 真人 畑中千賀子

桐澤 航 杉山幸一郎

■3月2日、「AD2007」が小泉雅生氏、曾我部昌史氏、西沢大良氏の3名の建築家を審査員に行われた。卒業制作22作品の応募から「AD2007」は該当作品なし、特別に設けられた「AD2007奨励賞」として、小野志門君(佐藤光彦研究室)「Hotel Mokumitsu 一ある建築の終わりと始まりに関する話一」が受賞した。「AD2007+」は、修士設計8作品の応募から、山田明里さん(本杉研究室)「浅草隅田川河畔における芝居空間の提案 一平成歌舞伎小屋の設計を通じて一」が受賞した。

■平成18年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科329名、大学院建築学専攻博士前期課程68名、同後期課程3名、同不動産科学専攻博士前期課程5名、同後期課程1名、短大建設学科110名であった。

■清水五郎教授、高宮真介教授、大西正紀助手、平野修也副手、三上功生副手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付けの人事で、岡田章助教授が教授に、佐藤慎也助手が助教に、山田雅一助手が助教に、田所辰之助短大専任講師が准教授に、羽入敏樹短大専任講師が准教授に昇格された。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、中田善久准教授、古橋剛准教授、山崎誠子助教、山中新太郎助教、長谷川洋平助手の5名である。

■4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、矢代真己准教授である。

■建築学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り(敬称略)。

〈新任〉

川島 茂(デザイン基礎、建築設計Ⅰ)

高宮 真介(建築設計Ⅳ)

田口 知子(建築設計Ⅱ、Ⅴ)

仲亀 清進(デザイン基礎、建築設計Ⅰ)

〈退任〉

城戸崎和佐(建築設計Ⅲ、Ⅳ)

田島 夏樹(建築設計Ⅰ、Ⅵ)

八町 雅康(建築環境実験)

吉田 正良(建築法規Ⅰ)

■大学院建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り(敬称略)。

〈新任〉

東 建男(建築デザインⅡ)

〈退任〉

飯田 善彦(建築デザインⅡ)

野村 歡(建築計画特論Ⅱ・福祉工学特論)

■短大建設学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り。なお、平成18年10月に定年退職された、中山優短大教授は、引き続き非常勤講師として「鉄筋コンクリート・建築実験Ⅱ」の講義を担当する(敬称略)。

〈新任〉

上條 美枝(デザイン基礎・建築設計Ⅰ)

薩田 英男(デザイン基礎・建築設計Ⅰ)

桑原 茂(メディアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ)

〈退任〉

三瓶 満真(デザイン基礎・建築設計Ⅰ)

井坂 幸恵(建築設計Ⅱ・建築設計Ⅲ)

神野 郁也(建築設計Ⅱ・建築設計Ⅲ)

●駿建目次

(2007.4 Vol.35 No.1 通巻143号)

表紙 「AD2007(3月2日)」

撮影:大西正紀・末岡佐江子

プロフェッショナルを目指して

2

平成18年度 各賞受賞者一覧

18

建築学科履修要項

3

平成18年度 修了生・卒業生 研究課題一覧

20

短期大学部建設学科履修要項

11

平成18年度 各賞受賞作品

33

専門科目使用教科書並びに参考書

14

新任教員紹介

34

教室ぶろむな一ど

36